

2025年8月1日

各 位

会 社 名 株式会社 セ ッ ク
代表者名 代表取締役社長 櫻 井 伸 太 郎
(コード番号：3741 東証プライム市場)
問合せ先 取締役管理本部長 杉 山 寿 顕
(TEL. 03-5491-4770)

「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／ 量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」に採択されました

株式会社セック（代表取締役社長：櫻井伸太郎）は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の公募事業「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業／量子コンピュータの産業化のためのミドルウェア開発」に、KDDI 株式会社と共同で提案・応募し、採択されました。

研究開発テーマ

量子技術を巡る国際競争が激しさを増すなか、内閣府が掲げる「量子未来社会ビジョン」において、量子技術の社会実装や産業化の強化が重要方針として示されています。

本プロジェクトでは、量子コンピュータの産業利用加速に向けて、以下の2つの技術開発を行い、「AI・量子共通基盤」の構築を目指します。

- 計算資源を最適に割り当てるミドルウェア技術

利用者が専門的な知識を持たなくても利用できるプラットフォームを開発します。また、利用者がアプリケーションを実行する際に最適な計算資源を自動的に割り当てるロードバランシング技術の開発にも取り組みます。さらに、開発したアプリケーションを多数の利用者へ提供するためのアプリケーションサービスプロバイダーを開発し、量子コンピュータの利用者拡大を促進します。

- AI・量子コンピュータの運用技術

各量子コンピュータの運用に必要となるテレメトリデータの抽出と蓄積方法を開発し、量子コンピュータの運用技術を確立します。また、極低温冷凍機や制御装置といった周辺機器のテレメトリデータを基に障害検知・管理技術を確立します。

プロジェクト体制（提案時）

共同提案者 : KDDI 株式会社
株式会社セック

連携・共同研究機関：株式会社 KDDI 総合研究所
株式会社 Jij
株式会社 QunaSys
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
学校法人早稲田大学
学校法人慶應義塾
国立大学法人大阪大学
学校法人芝浦工業大学

当社の役割

当社は本プロジェクトにおいて、量子システムの障害検知技術および運用システムの研究開発を担当します。

量子コンピュータは、極低温冷凍機や制御装置など周辺機器と一体となって稼働するため、これらを含めたシステム全体の障害検知・管理技術が不可欠です。大阪大学量子情報・量子生命研究センターとの共同研究で、量子コンピュータ向けクラウドソフトウェア「OQTOPUS」の開発等に携わってきた経験を生かし、量子システムの障害検知及び安定稼働を支援する技術の構築に取り組みます。

（ご参考）ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業（NEDO）

「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」に係る公募について

https://www.nedo.go.jp/koubo/CD2_100396.html

「ポスト 5G 情報通信システム基盤強化研究開発事業」に係る実施体制の決定について

https://www.nedo.go.jp/koubo/CD3_100396.html

ニュースリリースに関するお問い合わせ先

株式会社セック 広報担当

TEL：03-5491-4770

お問い合わせフォーム：<https://www.sec.co.jp/ja/contact/contact.html>

以上